

層に住もう

早稲田大学 辻本雄一朗

一人でいたいときと二人でいたいとき
その間には、色々な距離感がある

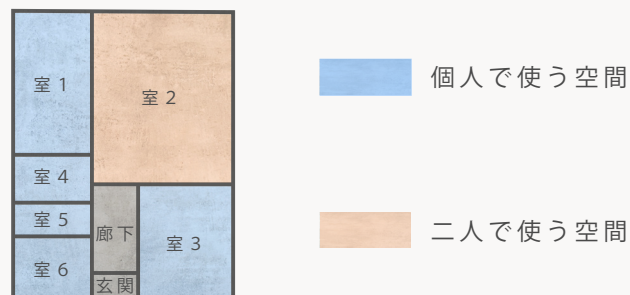
別々で作業や料理をしているけれど、
時間や空間を共有したいとき
喧嘩をして距離を置いているけれど、
お互いの様子が気になるとき
そんな曖昧な距離感を大切にする
暮らしはどうだろうか

本提案では、連続するアーチが2人の
距離感を調節する暮らしの装置となる

ときに2人の生活を切り取る額縁になり
ときに2人を仕切る舞台幕になり
ときに2人のものを共有する建具になり
ときに2人の居場所をつくる壁になる

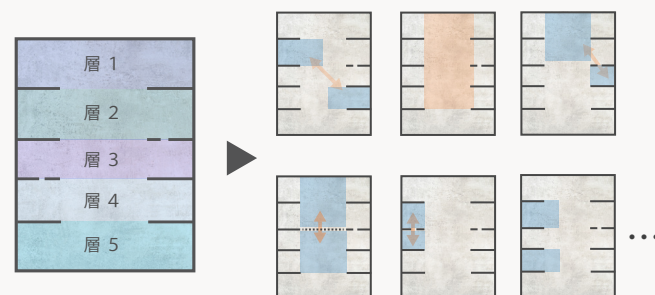


01. 一般的な二人暮らし



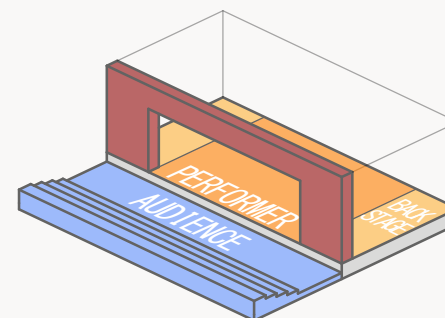
一般的な賃貸では室同士が壁で仕切られており、個人の部屋と二人の部屋の間にグラデーションが存在しない。しかし、個々のライフスタイルが尊重され変化する現代において、個人⇄二人の間に様々な距離感が存在するのではないかな。

02. 新たな二人暮らし

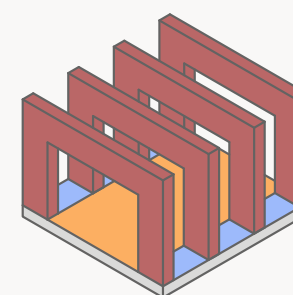


層状の間取りにより、二人が距離感を自在に変えられる空間を提案する。それぞれの層には各生活機能が挿入され、層を仕切る壁の視覚的な重なり・開口・レール（カーテンや服）が二人の距離感を調節する装置となる。

03. 境界の提案 - プロセニウムアーチの応用 -



劇場で用いられる「プロセニウムアーチ」は、空間を共有する演者と観客をゆるく仕切る。このアーチを利用して二人の間を仕切り、連続させることで多様な距離感と仕切り方を実現する。



- COMMON
- ・リビング
 - ・ダイニング ...
- PRIVATE
- ・仕事場
 - ・トイレ
 - ・書斎
 - ・ベッド
 - ・風呂
 - ...

舞台袖にあたる部分は書斎や手洗いなど、プライベートな空間となる。連続する舞台部分は共有空間となり、アーチが額縁のように機能することで活動が生活の景色として切り取られる。

連なるアーチはそれぞれが役割を持ち
視覚的 / 物理的に空間を仕切る装置となる

連続することで生まれる層状の空間には
それぞれ生活に必要な機能を挿入する

形の異なるアーチは視覚的に重なり合い
さまざまな生活の風景を切り取る

ダイニングを切り取るアーチ

座ることで覗ける小さな開口からはキッチンやダイニングの
様子が垣間見える。大開口はダイニングの様子を切り取る

落ち着く空間を作るアーチ

壁部が個人の空間をつくり、カーテンが自在に全体
を仕切る。他のアーチと重なり共用部を強く縁取る

モノが棲みつくアーチ

レールやスリットに服や個人のものが
集まり時々刻々と変化する境界となる

生活を映すアーチ

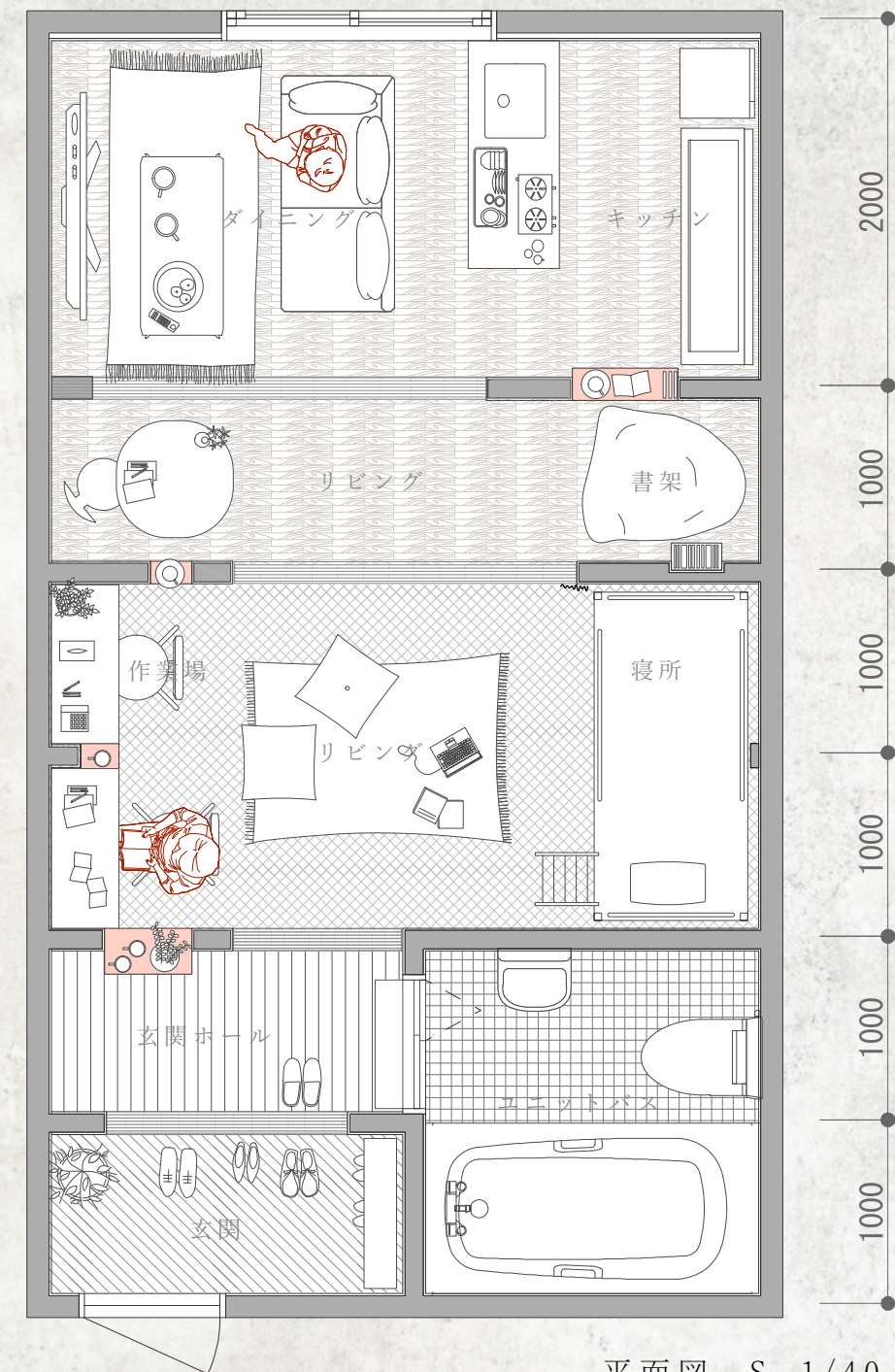
入出時、全アーチが重なり
できる生活の風景を縁取る

玄関のアーチ

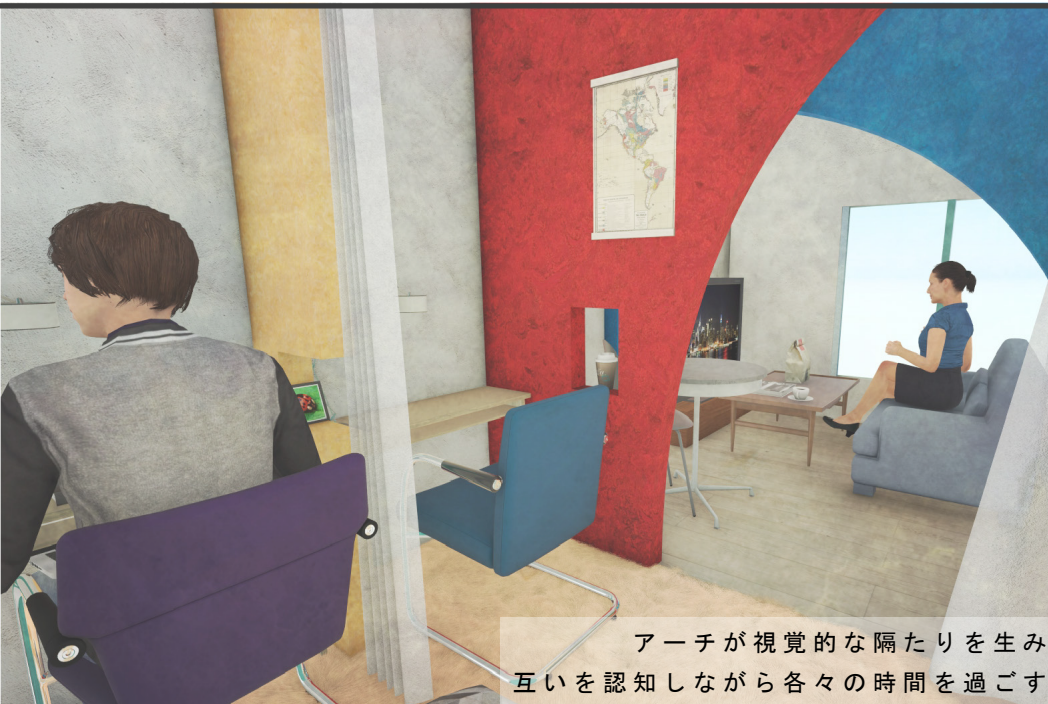
室内外の視覚的な
転換点となる

DINING
& KITCHEN
READ / LIVING
STUDY / SLEEP 1
STUDY / SLEEP 2
CHANGE / BATHROOM
ENTRANCE / BATHROOM

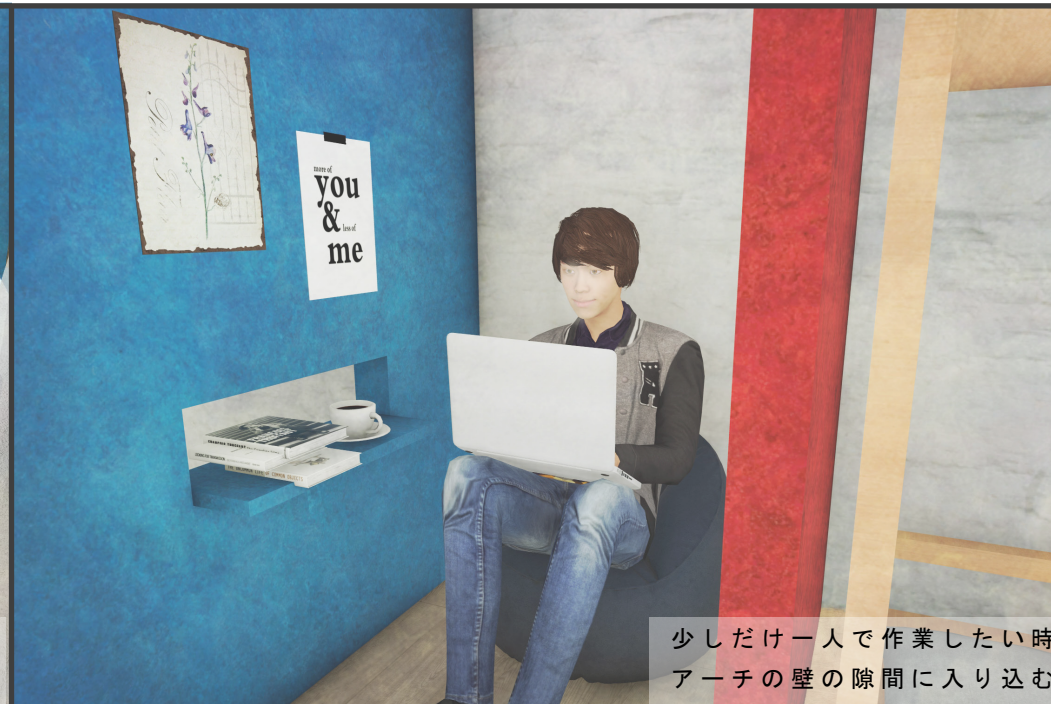
AXOME
DIAGRAM



平面図 S=1/40



アーチが視覚的な隔たりを生み
互いを認知しながら各々の時間を過ごす



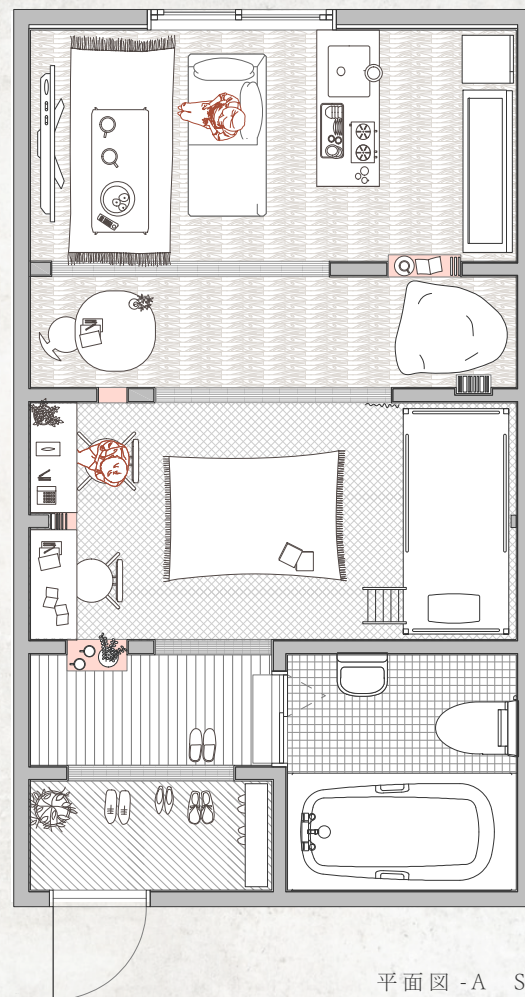
少しだけ一人で作業したい時
アーチの壁の隙間に入り込む



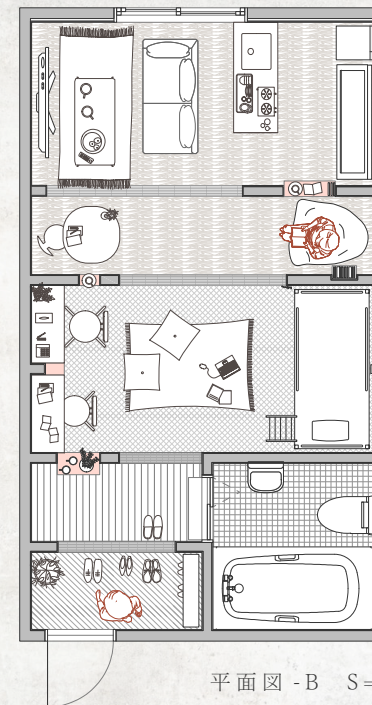
キッチンで作業している途中
勉強するルームメイトを垣間見る

Case Study

アーチのもつレール（カーテン）や開口は視覚的に距離感を調節するだけでなくモノが吊られたり置かれたりすることで二人の暮らしを記憶していく



平面図 -A S=1/60



平面図 -B S=1/85



平面図 -C S=1/85



平面図 -D S=1/85



帰宅した時
一人を楽しんでいると気づく



来客時や喧嘩した時、少し距離を置きたい時は
カーテンが共用空間をゆるく仕切る



デスク作業中
リビングのルームメイトの様子を垣間見る



二人ですごす時
カーテンやアーチを利用して空間を調節する